

インターハイ出場決定 =憧れの舞台 熊本へ=

第71回県高総体ボート競技が、5月31日～6月1日、西和賀町錦秋湖を会場に行われました。

嶋津慶、富山大地（ともに3年）が男子ダブルスカルで、甲斐谷こいき、鳥居亜美、鳥居亜紀、山寄理沙、堀合明香莉（全員2年）が女子舵手付クォドルプルで優勝し、南九州インターハイの出場権を獲得しました。

男子ダブルスカルでは、競り合いから終盤抜け出しての優勝。女子クォドルプルでは、昨年秋の東北選抜大会で優勝した宮古高校チームを僅差でくだし栄冠を勝ち取りました。

また、男子シングルスカルで山崎北斗（2年）が2位（東北選手権出場）、梶山直人（2年）が3位。女子シングルスカルで、板橋みなみ（2年）が3位に入賞しました。女子は3年ぶりの総合優勝も果たしました。

以下は、選手の感想、インターハイへの決意です。

【嶋津慶さん】

最後の高総体ということもあり、緊張していた。決勝では、中間付近でオールが深く入って船が止まってしまった。750mあたりで落ち着き、1位でゴールできた。インターハイの権利を得ることはできたけど、男子4人でのシートの取り合いが始まる。もっと体力づくりをがんばり、体をしぼる。

【富山大地さん】

インターハイは初めての全国大会なので、練習の成果を発揮して、自分がどこまで行けるかを確かめるだけでなく、入賞して賞状を持ち帰られるよう努力したい。今回の勝利はたくさんの人の支えがあったからこそその勝利なので、それを忘れずインターハイでも戦いたいと思います。

【山寄理沙さん】

練習でやってきたことに自信を持ち、決勝で自分たちのレースができたと思います。頑張ってきてよかったなと思います。勝ちにふさわしい人になって、応援されるクルーになります。

【堀合明香莉さん】

優勝旗（総合優勝）と憧れだった優勝カップ（クォドルプル）も手に取ることができて嬉しかったです。インターハイではレベルの高いレースができるよう、コックスとしてコールを通じて、クルーのまとまりやレース運びをしっかりとやってクルーに貢献していきたいです。

【甲斐谷こいきさん】

予選ではリズムを作れなくて、負けてしまい悔しかったけれど、決勝では切り替えていつも通り漕ぐことができました。楽しいレースでした。クォドルプルに乗って難しいと感じることもあるけれど、これからの練習ではスピード感を持ってレースを意識して取り組みます。

【鳥居亜美さん】

辛いこともあったし、練習が嫌になるときもあったけど、女子みんなで切磋琢磨して、0.3秒という接戦を



勝ち抜けたことがとても嬉しかったです。インターハイで戦えるスピードや技術、体力を身に付けて、全国に通用するクルーになって賞状を取ってこられるよう頑張りたいと思います。

【鳥居亜紀さん】

750mのスパートからどちらも譲らず接戦でしたが、勝てる自信がありました。それは練習の積み重ねがあったからだと思いました。苦しくて、でも楽しいレースは初めてでした。初めてのインターハイで、楽しみな気持ちと、緊張や不安もあるけれど、ビビらず自分たちらしくレースしたいです。



宮古高校と競り合う（奥が山高）

交通安全教室

5月22日（水）、宮古警察署金康卓さんを講師にお招きし、また交通安全指導員2名の方の協力で、交通安全教室を実施しました。県内の交通事故、宮古管内の交通事故の状況の説明、自転車の乗り方の指導を受けました。町内は、どんどん新しい道路ができ、交通環境が変化しているので、十分注意しましょう。

【1年A組 大久保花連さん】

今までの生活でも事故に気をつけてきたつもりだったが、歩きスマホなどをしてしまっていたので、これからはしないように心がけながら生活していきたいです。自転車に乗るときには、今回の交通安全教室で学んだことを頭に入れ、気をつけたいです。

【1年B組 馬場祭里さん】

事故が無くならない限り、誰かが亡くなったりしていると思うと心が痛みます。自分や他人のいのちを無駄にしないように、交通ルールをしっかり守って、安全な生活を送っていきたいです。

【2年A組 佐々木莉那さん】

夜は道が暗くてよく見えないので、自転車に乗るときはライトをしっかりつけて走ろうと思った。ライトは照らすだけでなく、車の人に自分の存在を知らせるという意味があることも分かりました。

【2年B組 佐々木麻里さん】

周りを注意深く見て、正しい判断をすることで事故を防止できると分かったので、たとえ歩行者であったとしても、周りを見ながら行動したいです。

【3年A組 熊谷優香さん】

小学生の頃から交通安全の話をきいて、自分は当たり前に行っていると思い込んで、深く考えたりすることがなかったので、自分を見つめ直す良い機会になりました。

【3年B組 熊谷海斗さん】

自転車に乗るときは、自分が見本になることを自覚して走行しようと思います。加害者にも被害者にもならない自転車の走行をしようと思います。自分はちゃんとしていると思っていても、事故を防ぐために、油断をしないように注意します。